

## 理学療法学科Ⅱ部 シラバス

科目名	生体工学			単位数	1	時間数	18
科目区分	基礎分野	対象年次	4	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	原田 憲二 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						
授業の概要	1. 本科目の目的は、ヒトの動作を工学的に分析する能力を習得することである。						
学習到達目標	1. 工学に関する基礎知識を理解する。 2. ヒトの動作を工学的に分析する方法を理解する。						
授業内容	回	内容	回	内容			
	1	【正常動作の観察と分析】 ・静力学と動力学など	7				
	2	【臨床における動作分析の進め方】 ・動作の構造と分析など	8				
	3	【疾患・症状別異常動作の特徴】 ・脳血管障害など	9				
	4	【疾患・症状別異常動作の特徴】 ・脊髄損傷など	10				
	5	【疾患・症状別異常動作の特徴】 ・パーキンソン病など	11				
	6	【総まとめ】	12				
授業方法	講義形式。						
成績評価の方法	筆記試験(100点)に出席率、授業態度などを加味して評価する。						
履修上の留意点	基礎的な力学について理解しておくことが望ましい。						
教科書等	資料配布						
参考図書等	奈良勲 『臨床動作分析 第2版』 医歯薬出版株式会社						
関連科目	解剖学(1年)、運動学(1年) その他、多くの科目と関連します。						
最近の国試出題傾向	テコの原理に関する問題は頻出。						

## 理学療法学科Ⅱ部 シラバス

科目名	基礎学科総括			単位数	2	時間数	30
科目区分	専門基礎分野	対象年次	4	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	小野 晋 他 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						
授業の概要	1. 本科目では様々な基礎科目の知識を統合し、臨床実習に有益な情報を共有することを目的とする。						
学習到達目標	1. 各基礎科目の知識を再確認する。 2. 各基礎科目の知識を統合し、臨床実習に有益な情報を共有する。						
授業内容	回	内容	回	内容			
	1	【整形外科】 人工関節・靭帯損傷など	7	【小児疾患】 脳性麻痺など			
	2	【脳血管疾患】 脳卒中・クモ膜下出血など	8	【老年期の理学療法】 骨粗鬆症など			
	3	【循環器疾患】 心筋梗塞・狭心症など	9	【壮年期の理学療法】 生活習慣病など			
	4	【呼吸器疾患】 COPDなど	10	【小児期の理学療法】 NICUでの理学療法など			
	5	【代謝性疾患】 糖尿病など					
	6	【難病】 ALS・パーキンソン病など					
授業方法	講義形式						
成績評価の方法	筆記試験(100点)に出席率、授業態度などを加味して評価する。						
履修上の留意点	各基礎科目の復習をしておくこと。						
教科書等	各基礎科目で用いた教科書						
参考図書等	理学療法ハンドブック						
関連科目	整形外科学、疾患別理学療法学に関連						
最近の国試出題傾向	脳血管障害の分野は頻出。近年は、循環器・呼吸器・代謝性疾患も出題数が増えている。						

## 理学療法学科Ⅱ部 シラバス

科目名	理学療法研究法Ⅱ			単位数	1	時間数	18
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	山際 清貴						

授業の概要	<p>1. 研究の意味は「得られた成果を固有の領域に応用する側面とともに、研究を通して身につけられた問題解決能力や論理性、表現能力の向上によって日ごろの臨床や教育に貢献するため」といえる。</p> <p>2. 本科目の目的は、理学療法の実践に限らず、研究や教育の分野でも活躍し得る研究の方法論を学び、習得することである。</p>						
学習到達目標	<p>1. 研究法の重要性を理解する。</p> <p>2. 初歩的な統計手法を理解する。</p> <p>3. 文献の精読方法を理解する。</p>						
授業内容	回	内容	回	内容			
	1	【研究・実験計画】 ・対象者の選択、信頼性と妥当性など	7				
	2	【臨床研究の実際】 ・シングルケースデザインなど	8				
	3	【統計】 ・分散分析、多変量解析など	9				
	4	【論文の書き方】 ・論文の構成など	10				
	5	【研究発表の仕方】 ・卒後研究など	11				
	6		12				
授業方法	講義形式。						
成績評価の方法	筆記試験(100点)に出席率、授業態度などを加味して評価する。						
履修上の留意点	理学療法のトピックスについて理解しておくことが望ましい。						
教科書等	資料配布						
参考図書等	奈良勲 『理学療法研究法 第2版』 医学書院						
関連科目	理学療法研究法Ⅰ(2年)						
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に1問出題						

## 理学療法学科Ⅱ部 シラバス

科目名	疾患別理学療法治療学総括			単位数	4	時間数	66
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	原田 憲二 他 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	1. 本科目では、各疾患の知識と理学療法の実際を統合する能力を習得する。						
学習到達目標	1. 各疾患に関する知識を理解する。 2. 各疾患の病態を理解する。 3. 各疾患の対する理学療法を理解する。						
授業内容	回	内容	回	内容			
	1~3	【難病】 ・パーキンソン病など	14・15	【スポーツ障害】 ・靭帯損傷など			
	4・5	【呼吸器疾患】 ・COPDなど	16・17	【整形疾患】 ・腰痛など			
	6・7	【循環器疾患】 ・心不全など	18・19	【中枢性疾患】 ・脳卒中など			
	8・9	【内部障害】 ・糖尿病など	20~22	【総括】			
	10・11	【小児疾患】 ・脳性麻痺など					
	12・13	【老年症候群】 ・転倒など					
授業方法	講義と実習を併せて実施する。						
成績評価の方法	筆記試験(100点)に出席率、授業態度などを加味して評価する。						
履修上の留意点	各疾患の特徴を理解しておくことが望ましい。						
教科書等	資料配布						
参考図書等	基礎運動学 理学療法ハンドブック						
関連科目	検査測定学(1年) その他、多くの科目と関連します。						
最近の国試出題傾向	第52回国家試験に5問程度出題(片麻痺の運動療法・心不全の理学療法・ストレッチなど)						

## 理学療法学科Ⅱ部 シラバス

科目名	リハビリテーション機器Ⅱ	単位数	1	時間数	18		
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	通年	授業形態	講義
担当講師	原 隆之 ○理学療法士の実務経験に基づく講義						

授業の概要	<p>1. 高齢者や障害者が自立した日常生活を送るためや、介護をしている方の負担を軽減するために、人的パワーと並んでリハビリテーション機器にも大きな役割が期待されている。</p> <p>2. 本科目の目的は、リハビリテーション機器Ⅰで学んだ知識をもとに、症例に応じた機器の選択について経験することである。</p>					
学習到達目標	様々な疾患や症例に応じたリハビリテーション機器を選択できる。					
授業内容	回	内容	回	内容		
	1	【ベッド】 ・各疾患に応じた寝具について	7			
	2	【リフトと吊り具】 ・各疾患に応じた姿勢調節の方法など	8			
	3	【歩行器】 ・各疾患に応じた歩行器の選択	9			
	4	【車いす】 ・各疾患に応じた車いすの選択	10			
	5	【電動三・四輪車】 ・各疾患に応じた処方時の注意点	11			
	6		12			
授業方法	講義、ならびにグループ学習					
成績評価の方法	レポート課題(100点)に出席率、授業態度などを加味して評価する。					
履修上の留意点	参考図書に目を通しておくことが望ましい。					
教科書等	奈良勲 『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第3版』 医学書院					
参考図書等	理学療法ハンドブック					
関連科目	リハビリテーション機器(2年) その他、多くの科目と関連します。					
最近の国試出題傾向	福祉機器に関する問題は頻出。					

## 理学療法学科Ⅱ部 シラバス

科目名	臨床実習Ⅱ			単位数	2	時間数	90
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	通年	授業形態	実習
担当講師	理学療法学科専任教員／実習施設指導者 ○理学療法士の実務経験に基づく指導						

授業の概要	1. 本科目の目的は、実際に介護老人福祉施設に赴き、理学療法士の役割を習得することである。					
学習到達目標	1. 臨床現場で理学療法士の役割を理解する。					
授業内容	回	内容	回	内容		
	実習開始前	学内実習オリエンテーション				
	外部実習施設	朝のカンファレンスの見学 対象者の迎え方(1日の時間の過ごし方) 情報収集の方法(作業療法士・言語聴覚士・看護師・介護職員など) 理学療法(評価・物理療法を含む)の見学 他部門との協働方法を観察学習 問題が生じた場合の対応方法を学ぶ その他				
	実習終了後	実習終了後オリエンテーション				
授業方法	実習地に赴き指導を受ける。					
成績評価の方法	実習施設での実習到達度の評価(20%)、学内発表などを総合して点数化(80%)し評価を行う。					
履修上の留意点	理学療法の全体像について理解しておくことが望ましい。					
教科書等	指定のものはなし					
参考図書等	指定のものはなし					
関連科目	理学療法評価法、運動療法学等、幅広い科目に関連する。					
最近の国試出題傾向	近年、患者様との面接手法について出題される。					

## 理学療法学科Ⅱ部 シラバス

科目名	臨床実習Ⅲ			単位数	8	時間数	360
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	通年	授業形態	実習
担当講師	理学療法学科専任教員／実習施設指導者 ○理学療法士の実務経験に基づく指導						

授業の概要	<p>1. 本科目の目的は、実際に病院などの医療施設に赴き、理学療法士の役割を習得することである。</p> <p>2. 本科目は主に検査・測定実習を主とし、検査測定技術と評価の習得を目的とする。</p>							
学習到達目標	<p>1. 臨床現場で理学療法士の役割を理解する。</p> <p>2. 必要に応じた検査・測定項目を選択し、実践できる。</p>							
授業内容	回	内容	回	内容				
	実習開始前	学内実習オリエンテーション 実習指導者会議 客観的臨床能力試験(OSCE)						
	外部実習施設	実習指導者の指導・監督のもと、対象者の検査・測定、評価、目標設定、治療計画立案、理学療法の実施までの一連の過程を経験する。 上記の項目を見学・模倣・実践と段階的に進行する。 日々の行動・考えを観察記録シート・症例記録シートに記録し、指導者との検討および内省を行うことで学習を進める。						
	実習終了後	客観的臨床能力試験(OSCE) 実習終了後オリエンテーション						
授業方法	実習地に赴き指導を受ける。							
成績評価の方法	実習施設での実習到達度の評価(20%)、学内発表などを総合して点数化(80%)し評価を行う。							
履修上の留意点	理学療法の全体像について理解しておくことが望ましい。							
教科書等	指定のものはなし							
参考図書等	指定のものはなし							
関連科目	理学療法評価法、運動療法学等、幅広い科目に関連する。							
最近の国試出題傾向	近年、患者様との面接手法について出題される。							

## 理学療法学科Ⅱ部 シラバス

科目名	臨床実習Ⅳ			単位数	8	時間数	360
科目区分	専門分野	対象年次	4	学期	通年	授業形態	実習
担当講師	理学療法学科専任教員／実習施設指導者 ○理学療法士の実務経験に基づく指導						

授業の概要	<p>1. 本科目の目的は、実際に病院などの医療施設に赴き、理学療法士の役割を習得することである。</p> <p>2. 本科目は総合臨床実習である。障害を有する患者に対し、適切な検査・測定をもとに問題点を抽出す治療プログラムの立案を学ぶことを目的とする。</p>					
学習到達目標	<p>1. 臨床現場で理学療法士の役割を理解する。</p> <p>2. 問題点から必要な治療プログラムを立案できる。</p> <p>3. 治療プログラムの模倣・実践が可能となる。</p>					
授業内容	回	内容	回	内容		
	実習開始前	<p>学内実習オリエンテーション 実習指導者会議 客観的臨床能力試験(OSCE)</p>				
	外部実習施設	<p>実習指導者の指導・監督のもと、対象者の検査・測定、評価、目標設定、治療計画立案、理学療法の実施までの一連の過程を経験する。 上記の項目を見学・模倣・実践と段階的に進行する。 日々の行動・考えを観察記録シート・症例記録シートに記録し、指導者との検討および内省を行うことで学習を進める。</p>				
実習終了後	<p>客観的臨床能力試験(OSCE) 実習終了後オリエンテーション</p>					
授業方法	実習地に赴き指導を受ける。					
成績評価の方法	実習施設での実習到達度の評価(20%)、学内発表などを総合して点数化(80%)し評価を行う。					
履修上の留意点	理学療法の全体像について理解しておくことが望ましい。					
教科書等	指定のものはなし					
参考図書等	指定のものはなし					
関連科目	理学療法評価法、運動療法学等、幅広い科目に関連する。					
最近の国試出題傾向	近年、患者様との面接手法について出題される。					